



〔雪庵菓子皿〕 神坂雪佳 京都国立近代美術館蔵

第20号：平成28年1月7日 神坂雪佳 —— 3

琳派四百年の行事が進行するにつれて、琳派の現在、さらにその先の未来についての議論が始まっている。

琳派の特質として「私淑」という言葉が上げられる。琳派には師弟関係がない。継承者たちは密かに先人の人柄や仕事ぶりを慕うことから始めるのが「私淑」であり、先生から直接指導を受けて習い継承するものではない。やはり琳派に傾倒し、崇拝し制作する姿勢が求められる。そこには琳派らしい装飾の美が表現されていなければならないだろう。

琳派の装飾の美とは「かざる」ことにあり、「かざる」意識の根底にはまざり気ない、純粹な祈りにも似た心の存在が認められる。それは日本人の心にしみこんでいる自然への崇拝の念ともいえる。

菓子を盛る器でありながら、頬杖をつきながら窓の外の冬景色を眺める人物の表情には器を手にした人々へなにか語りかけている。雪佳が日本人の心の「かざり」の真意を訴えているのだ。

* 古典の日絵巻〔第4巻：琳派400年〕は今回で最終回となりました。ご愛読くださった皆さま、寄稿いただいた榎原先生、そして、お力添えをいただいた皆さまに、心より感謝を申し上げます。

